

宗岡中だより



2月号 令和2年1月31日(金)
志木市上宗岡1-8-1 TEL 048-471-2241

「教え子の 余りに早い 死を悼む」

校長 佐藤哲浩

今年の冬は偏西風が日本付近で北に蛇行し、南から暖かい空気に覆われやすく、冬型の気圧配置が長続きせず暖冬になっています。暖冬の影響でブロッコリーやカリフラワーが大きく育ち、冬野菜を栽培している農家やビール業界は売り上げが好調な一方で、雪不足のためスキー場の営業が危機的になっているところもあるようです。最近では多くのスキー場で人工降雪機を持っているため、深夜に雪をつくってゲレンデに撒いているところが殆んどですが、人工降雪機でさえも深夜に気温が-5℃以下にならないと、水のままでなかなか雪にならないのです。今後例年通りの寒さになることを願っています。



話は変わって私事になりますが、先週末、22年前に朝霞五中に勤務していた時の男子テニス部の副部長から、「女子テニス部の副部長だった〇〇が亡くなりました」と訃報の知らせが入ってきました。私は教え子のあまりに早すぎる死に思わず絶句してしまいました。そして、その生徒（以下Sさん）と過ごした3年間で走馬灯のように蘇ってきたのです。勉強・部活動に一生懸命取り組んでいたこと、いつもクラスの友人から信頼され大切な役割を担っていたこと、足が一番速くりレーではいつもアンカーに選ばれていたこと、本当に信じられない知らせでした。

Sさんは女子テニス部の副部長を務めていました。私のこれまでの教師人生の中で、歴代ナンバーワンの副部長であると今でも確信しています。副部長という立場をしっかりと理解し、部長より前に出ることなく部長を補佐し、上級生と下級生のパイプ役となり、また部長が欠席の時は部長代理として部活動を支えてくれました。この代で輝かしい戦績を残せたのは、副部長のおかげであるといっても過言ではありません。

最後の夏の大会（当時は公式戦が年3回）、Sさんが怪我したこともありレギュラーとして団体戦に出場させることができませんでした。県大会の前日のミーティングでメンバー発表の時、前衛の補欠がいなくなることを覚悟して、私はSさんにベンチ入りを命じました。ミーティングが終わって解散した後、私はSさんを残して、「〇〇は今まで副部長として本当によくやってくれた。〇〇以上の副部長はいない。だから明日はベンチに入って仲間を支えてくれ。」その瞬間、Sさんは堰を切ったように大きな声で泣きじゃくったのです。常に気丈にふるまっていた副部長の真逆の姿に、私の方が驚いてしまいました。県大会が終わり、最後の引退式でSさんが以下のような言葉を残したことを覚えています。「私は器用でないため練習で先生に怒られることが多く、副部長としても役目を果たしていなかったけど、私についてきてくれたみんなに感謝しています。最高の仲間・最高の部活動でした。……」 Sさんはしばらく嗚咽が止まらず泣き続けていました。